

## 第8章 施策の達成状況に関する評価手法

### 1. 数値目標

本計画の実現に向けて実施される各種施策の進捗状況及びその効果を確認し、より効果的に計画を実現していくため、以下のような目標を設定します。

#### ①都市機能誘導区域における魅力向上のための目標

都市機能誘導区域における都市機能を充実させることで、拠点としての魅力が向上すると考え、都市機能誘導区域内での誘導施設の立地数を目標として設定します。

| 現況（平成 22 年） | 5 年後（平成 33 年） | 目標年（平成 52 年） |
|-------------|---------------|--------------|
| 3 施設        | 3 施設          | 4 施設         |

#### ②市街地における生活環境の維持のための目標

居住誘導区域内の人口密度をある程度維持することで都市機能の立地が可能となり、利便性の高い生活環境が維持できると考え、居住誘導区域の人口密度を目標として設定します。

このまま推移した場合の人口密度は、約 42 人/ha 程度にまで減少することが予想されますが、都市機能や居住の誘導により、目標年における人口密度として 50 人/ha を目指します。

| 現況（平成 22 年） | 5 年後（平成 33 年）            | 目標年（平成 52 年）             |
|-------------|--------------------------|--------------------------|
| 約 64 人/ha※  | 約 60 人/ha<br>(約 60 人/ha) | 約 50 人/ha<br>(約 42 人/ha) |

※市街化区域人口は都市計画年報より。居住誘導区域は工業地域を除く市街化区域面積  
( ) 内の数値は、今のまま推移した場合の予測値

#### ③持続可能な公共交通ネットワークのための目標

公共交通の利用者数をある程度維持することで、現状のサービス水準が維持できると考え、結崎駅における 1 日当たり平均利用者数（乗降客数）を目標として設定します。

このまま推移した場合の利用者数は、約 2,900 人程度にまで減少することが予想されますが、駅の周辺への居住誘導や集客施設の維持・誘導等の施策により、目標年における利用者数として約 3,500 人を目指します。

| 現況（平成 27 年） | 5 年後（平成 33 年）            | 目標年（平成 52 年）             |
|-------------|--------------------------|--------------------------|
| 約 4,000 人   | 約 4,000 人<br>(約 4,000 人) | 約 3,500 人<br>(約 2,900 人) |

( ) 内の数値は、今のまま推移した場合の予測値

## 2. 計画の評価と見直し方針

評価のプロセスについては、Plan(計画)、Do(実行)、Check(評価)、Action(見直し)のPDCAサイクルを基本とした進行管理を行うこととし、本計画策定後、概ね5年ごとに、調査、分析評価を行い、本計画の進捗状況や妥当性等を検討します。

また、川西町第3次総合計画の進捗とも整合を図るため、総合計画の目標年である平成38年にあわせて計画の見直しを行うこととします。

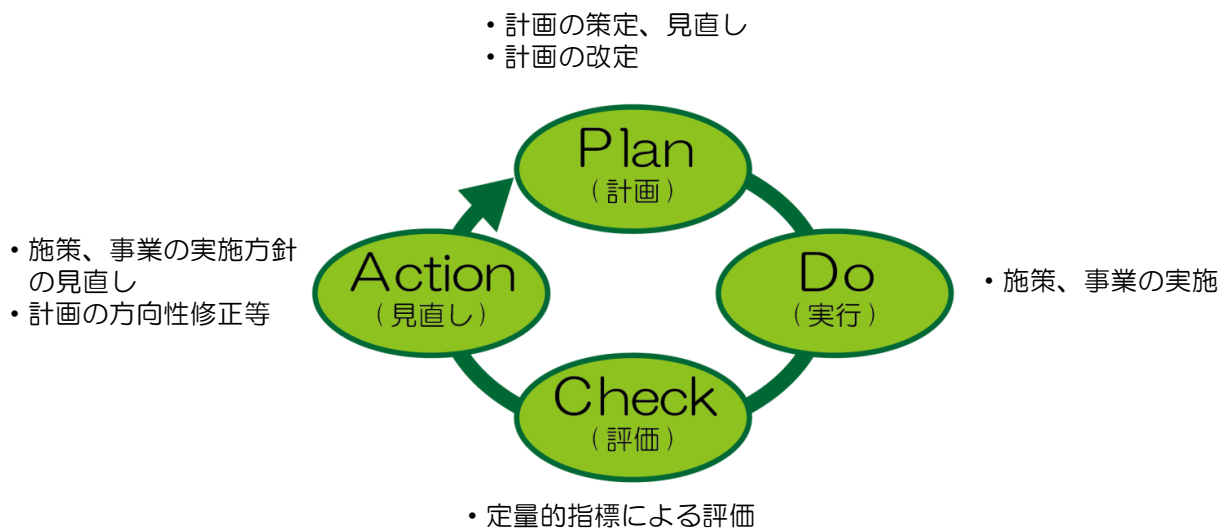


図8-1 PDCAサイクルによる進行管理のイメージ